

和  
顧客とのコミュニケーションなども充実

# ジャパンムーブ

きもの小売店のウェブ活用やECが本格化



京都きもの市場  
三松のきもの通販サイト

## 店舗とEC連携の仕組み作りが課題

**利益重視と文化発信**  
和装のECサイトで売り上げトップを走る京都きもの市場（田中敬次郎代表取締役社長）。サイトを軸に、近年は主に全国展開する展示販売会の売り上げ数が減り、20年7月期は大幅な減収。ECの売り上げも着用機会の減少からくる買い控えなどがあつたものの、「自宅で過ごす時間が増えたことで新しい顧客も増えた」ため、大きな変動はない。

ECでは産地や有力メーカーなどの商品や、作家物など価値が一般的に認められた商品が主力。明確化された支払いや回転率の高さを背景に仕入れ先と良好な関係を築き、品揃えの充実と鮮度、価格面での優位性を確

保。こうした努力でユーザーの満足度が高くリピート率も高い。また、15年から銀座を皮切りに店舗も展開し、現在は3店舗。「実際に商品を見たい」という声に対応し、当初はネットを伸ばして収益を上げてきた。しかし、コロナ禍で販売会の回数が減り、20年7月期は大幅な減収。ECの売り上げも着用機会の減少からくる買い控えなどがあつたものの、「自宅で過ごす時間が増えたことで新しい顧客も増えた」ため、大きな変動はない。

ECでは産地や有力メーカーなどの商品や、作家物など価値が一般的に認められた商品が主力。明確化された支払いや回転率の高さを背景に仕入れ先と良好な関係を築き、品揃えの充実と鮮度、価格面での優位性を確

保。こうした努力でユーザーの満足度が高くリピート率も高い。また、15年から銀座を皮切りに店舗も展開し、現在は3店舗。「実際に商品を見たい」という声に対応し、当初はネットを伸ばして収益を上げてきた。しかし、コロナ禍で販売会の回数が減り、20年7月期は大幅な減収。ECの売り上げも着用機会の減少からくる買い控えなどがあつたものの、「自宅で過ごす時間が増えたことで新しい顧客も増えた」ため、大きな変動はない。

ECでは産地や有力メーカーなどの商品や、作家物など価値が一般的に認められた商品が主力。明確化された支払いや回転率の高さを背景に仕入れ先と良好な関係を築き、品揃えの充実と鮮度、価格面での優位性を確

保。こうした努力でユーザーの満足度が高くリピート率も高い。また、15年から銀座を皮切りに店舗も展開し、現在は3店舗。「実際に商品を見たい」という声に対応し、当初はネットを伸ばして収益を上げてきた。しかし、コロナ禍で販売会の回数が減り、20年7月期は大幅な減収。ECの売り上げも着用機会の減少からくる買い控えなどがあつたものの、「自宅で過ごす時間が増えたことで新しい顧客も増えた」ため、大きな変動はない。

ECでは産地や有力メーカーなどの商品や、作家物など価値が一般的に認められた商品が主力。明確化された支払いや回転率の高さを背景に仕入れ先と良好な関係を築き、品揃えの充実と鮮度、価格面での優位性を確

きもの小売店のウェブ活用やECが本格化しつつある。きものは洋服と比べて価格が高いめ「ECには不向き」だと言われてきたが、仕入れの工夫による価格の抑制やカジュアルな普段着のきもの、小物など手に取りやすい価格帯中心の品揃えを実現。同時にウェブを活用した発信や顧客とのコミュニケーションなども充実してきている。

このお役立ち情報や和文化の紹介、それに携わる人物のインタビューなど、和装の周辺文化をさまざまな角度から紹介する情報サイト。ソフト面や文化の側面から市場の活性化をサポートするコンテンツとして充実する。

昨年の自粛期間以降は改めて利益確保重視の方針を推進し、固定費削減などで営業利益は増益。「新たビジネスモデルを確立しつつある」（田中社長）と手応えを語る。また、ECでも3年以内に売上高10億円、5年で15億円を目指す。

ECと店舗の連携模索

三松は販売を伴う自家サイトを16年に立ち上げたほか、ゾウタウンや楽天、ヤフーなどに合計で8サイトを開設。ブランド認知度の向上を狙う戦略だ。昨年度のEC全体の売り上げは約4割減と大きかった。和装では、小物を除くと振袖とゆかたなど着る機会やシーズンが限定され、アイテムが主力だったため、人の集まる機会が極端に減る昨

年は、まだ歴史の浅い

サイトだけに、コ

ロナの有無にかか

わらず、ウェブに

おけるコミュニケーション強化・顧

客視点でのユーザ

ビリティ改善な

後はチャットボッ

トの導入も検討し

てある。問い合わせ

NE相談窓口を設

置しウェブを活用

する。昨年からI

N相談窓口を設

置しウェブを活用</